



1. 訪米の意義

(1) 戦後70年の日米関係の歩みと将来に関する肯定的メッセージの発信

今回の訪米においては、戦後70年の節目の年にあたって、戦後いかに日米同盟がアジア太平洋地域そして世界の平和と安定に貢献してきたかについて確認し、また、今後も、自由、民主主義、基本的人権、法の支配といった基本的価値観の上に立って、両国が手を携えて地域そして世界への貢献を続けていくとの強い意思を発信することができた。特に、日本の総理大臣として史上初となった上下両院合同会議での安倍総理による演説は、こうした点を強調するものとなった。

(2) 日米同盟の一層の強化と日米首脳間の絆の確認

今回の安倍総理による米国訪問は、昨年のおバマ大統領の国賓訪日に続く形での訪問となった。日米首脳会談においては、二国間の課題の進展を確認すると共に、地域情勢やグローバルな課題への対応での連携を確認し、今後一層協力を強化していくことを確認した。また、おバマ大統領自らガイド役を務めて安倍総理をリンカーン記念館に案内した他、公式晩餐会においては和やかな歓談が行われる等、訪問を通じて両首脳間の個人的関係が一層強化された。

(3) 将来に向けた多層的な日米関係の推進

今回の訪米においては、首都ワシントンDCに加えて、ボストン、サンフランシスコ、ロサンゼルスを訪れた。それぞれの都市において、学生、有識者、企業関係者等、幅広い層との交流を行い、政治のみならず、経済、文化、教育等の分野における両国間の協力の深まりを確認するとともに、将来に向けて更に厚みのある日米関係を構築していくことを確認した。また、日米間の重要な紐帯である日系米国人との一層の関係強化が図られた。

2. 主要行事の概要

(1) 日米首脳会談(4月28日)

- 日米二国間の課題では、新ガイドラインの下、同盟の抑止力・対処力が一層強化されることを確認するとともに、米軍再編を着実に進めていくことを確認。また、TPPにおける日米間の交渉の前進を歓迎し、日米が交渉全体をリードし、早期妥結に導いていくことで一致。
- 地域情勢では、日米が中核となり、法の支配に基づく自由で開かれたアジア太平洋地域を維持・発展させ、そこに中国を取り込むよう連携していくことで一致すると共に、中国のいかなる一方的な現状変更の試みにも反対することを確認。オバマ大統領からは、日米安保条約第5条が尖閣諸島を含む日本の施政下にある全ての領域に適用される旨改めて発言があった。また、北朝鮮、ウクライナ／ロシア、イラン等への対応においても連携していくことを改めて確認。
- グローバルな課題である気候変動、感染症対策について意見交換。



(2) 議会演説(4月29日)

- 日本の総理として史上初となる上下両院合同会議における演説では、戦火を交えた日米両国が、和解を経て、人類が直面する課題に手を携えて貢献していくという力強いメッセージを伝えた。
- 演説中、米国議員からは14回に及ぶスタンディング・オベーションがあった。終了後、多くの議員から賛辞が寄せられ、演説中に涙を流したベイナー下院議長(右写真)は、「安倍総理の演説は米国民を讃えるものであり、また、我々は、第二次世界大戦での米国戦死者に対し安倍総理が示された尊敬の念に、心から感謝する」とコメント。また、マケイン上院軍事委員長は、「素晴らしいスピーチ。我々の『希望の同盟』強化に向けた重要なステップだ」とコメントした。



3. 地方都市での発信

(1) ボストン(4月26・27日)

- ケリー国務長官の私邸における夕食会やケネディ・ライブラリー訪問等を通じて、日米関係のキーパーソンゆかりの地で様々なレベルで日米関係を強化。
- ハーバード大学学生への挨拶、MITの有識者等との意見交換を通じ、日米の繋がりの強さにつき発信すると共に、東海岸のイノベーション創出、起業、ベンチャー支援の本拠地で、それらを成長戦略の柱とする日本の姿勢を発信。

(2) ワシントンDC(4月27～30日)

- 首脳会談前日、オバマ大統領の案内でリンカーン記念碑を二人のみで訪問。首脳間の絆を深めた。
- バイデン副大統領・ケリー国務長官主催の昼食会、ホワイトハウスにおける公式晩餐会に出席。
- アーリントン国立墓地及び第二次大戦メモリアルを訪問し、大戦の犠牲者の方々に哀悼を捧げた。
- 笹川平和財団米国主催シンポジウム、全米商工会議所との懇談、日米関係者を集めたガラディナー、STSフォーラム関係者との朝食会に出席し、両国の各分野における強固な関係を発信。

(3) サンフランシスコ(含:シリコンバレー)(4月30日・5月1日)

- 起業家との意見交換やスタンフォード大学での日米交流促進プロジェクトの発表、テスラ・モーターズ、フェイスブック訪問等を通じ、イノベーション創出、起業、ベンチャー支援等を成長戦略の柱とする日本の姿勢を発信。
- ブラウン・カリフォルニア州知事による総理表敬とシミュレータ体験を通じ、新幹線技術のトップセールスを実施。

(4) ロサンゼルス(5月1・2日)

- 日米の有力なビジネスマンが集まる日米経済フォーラムに出席、対米・対日双方向の更なる投資促進を呼びかけ。
- 日系人部隊記念碑献花、日系人との会合への出席を通じ、日本と日系米国人との関係、絆を改めて強調した。
- 南カリフォルニア大学を訪問。